

舞鶴工業高等専門学校		開講年度	平成29年度 (2017年度)		授業科目	情報処理 I	
科目基礎情報							
科目番号	0166			科目区分	専門 / 必修		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	建設システム工学科			対象学年	3		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	プリントを配布する。						
担当教員	渡部 昌弘						
到達目標							
①プログラムの基本的なアルゴリズムを理解できる。 ②データの入出力、ファイルの操作ができる。 ③繰返し、条件判断、配列を用いた計算ができる。 ④副プログラムを利用したプログラミングができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	プログラムの基本的なアルゴリズムを十分に説明できる			プログラムの基本的なアルゴリズムを説明できる		プログラムの基本的なアルゴリズムを説明できない	
評価項目2	データの入出力、ファイルの操作が誤りなくできる。			データの入出力、ファイルの操作ができる。		データの入出力、ファイルの操作ができない。	
評価項目3	繰返し、条件判断、配列を用いた計算が誤りなくできる。			繰返し、条件判断、配列を用いた計算ができる。		繰返し、条件判断、配列を用いた計算ができない。	
評価項目4	副プログラムを利用したプログラミングを誤りなくできる。			副プログラムを利用したプログラミングができる。		副プログラムを利用したプログラミングができない。	
学科の到達目標項目との関係							
教育方法等							
概要	Basic 言語を用いたプログラミングの基礎について講義と演習を行う。パソコンを用いた実習課題を随時実施して理解を深める。						
授業の進め方・方法	講義と演習を行う。パソコンを用いた実習課題を随時実施して理解を深める。						
注意点	【成績の評価方法・評価基準】 授業中の課題（40％）と中間試験、期末試験の結果（60％）により総合的に評価する。 到達目標に基づき、Basic言語に対する理解と繰返しや分岐等を用いたプログラミングの基礎を理解しているかを評価基準とする。 研 究 室 A棟2階（A-208） 内線電話 8981 e-mail: m.watabe* （*は@maizuru-ct.ac.jp）						
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	シラバス内容の説明 Basic 言語ソフトの基本操作		①プログラムの基本的なアルゴリズムを理解できる。		
		2週	プログラムの概念と基本		①プログラムの基本的なアルゴリズムを理解できる。		
		3週	データ入出力		②データの入出力、ファイルの操作ができる。		
		4週	関数		②データの入出力、ファイルの操作ができる。		
		5週	ファイル操作		②データの入出力、ファイルの操作ができる。		
		6週	プログラムの繰返し1		③繰返し、条件判断、配列を用いた計算ができる。		
		7週	プログラムの繰返し2		③繰返し、条件判断、配列を用いた計算ができる。		
		8週	後期中間試験		①プログラムの基本的なアルゴリズムを理解できる。 ②データの入出力、ファイルの操作ができる。 ③繰返し、条件判断、配列を用いた計算ができる。		
	4thQ	9週	中間試験返却と解説		①プログラムの基本的なアルゴリズムを理解できる。 ②データの入出力、ファイルの操作ができる。 ③繰返し、条件判断、配列を用いた計算ができる。		
		10週	プログラムの分岐1		③繰返し、条件判断、配列を用いた計算ができる。		
		11週	プログラムの分岐2		③繰返し、条件判断、配列を用いた計算ができる。		
		12週	配列の利用1		③繰返し、条件判断、配列を用いた計算ができる。		
		13週	配列の利用2		③繰返し、条件判断、配列を用いた計算ができる。		
		14週	副プログラムの利用		④副プログラムを利用したプログラミングができる。		
		15週	総合演習		①プログラムの基本的なアルゴリズムを理解できる。 ②データの入出力、ファイルの操作ができる。 ③繰返し、条件判断、配列を用いた計算ができる。 ④副プログラムを利用したプログラミングができる。		
		16週	後期期末試験		①プログラムの基本的なアルゴリズムを理解できる。 ②データの入出力、ファイルの操作ができる。 ③繰返し、条件判断、配列を用いた計算ができる。 ④副プログラムを利用したプログラミングができる。		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標		到達レベル	授業週
専門的能力	分野別の専門工学	建設系分野	情報処理	プログラム言語の利用法について説明できる。		2	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後15,後16

				アルゴリズムとフローチャートについて説明できる。	2	後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				コンピュータを用いたデータ処理方法について説明でき、簡単なデータ処理ができる。	2	後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16

評価割合							
	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	60	0	0	0	40	0	100
基礎的能力	60	0	0	0	40	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0